ブラジル朝日新聞
（舊日伯新聞）
伯國聖市マエストロ・カルゼン街一一〇九
發行所 ブラジル朝日新聞社
本紙定價年六十ミル
外國郵税共百廿ミル

悲壯、英本土今や風前の燈

Apesar das más condições atmosphéricas a aviação allemã ataca Londres.

暗雲低く逆巻く怒濤
惡天候衝き獨機の强襲
時計の如く正確な爆撃振り

（ロンドン十九日同盟）英國東南部諸地方を襲つた暴風は十九日夜に至つても猶〻〻募り、ドーバー港一帶の海は南北の强風に煽られて逆巻く怒濤は岸壁に〻〻だけ、暗雲は海面低く垂れこめ、ケント州海岸一帶には船影さへ見えなかつたが、獨機のロンドン空襲はこの惡天候を突いて時計のごとく正確に敢行され、一機づつロンドンに襲來した獨機はいづれも從來と變り西北郊外より都心上空に接近し巨大な爆弾を投じた、屋上から見渡すと高射砲の彈幕縫つて建物とすれ〻〻の低空飛行を行つてはロンドン中央部に爆弾を投下する獨機の姿が見うけられた

獨機使用の新爆撃彈
宛ら燃え盛る太陽

【ロンドン十九日同盟】十八日夜から十九日未明にかけて行はれたロンドン空襲で、獨空軍がはじめて使用した火焔放射彈は、一種の恐怖爆彈でロンドン市民を愕然たらしめたが、この新型爆彈は高射砲彈が炸裂する中を數千メートルの高空から落下する有樣は恰も燃え盛る太陽のごとく、やがて眞空線の上まで落下したと思ふ頃突如白熱した火焔を放射しはじめ、そのまま地上目がけて墜落して來るのが目撃された

倫敦各所に火災

【ベルリン十九日同盟】獨軍司令部發表 一、獨空軍は十八日ロンドン地區を攻撃テイルベリーのドック、チヤタムの海軍造船所、ポート・ヴイクトリアの石油貯藏所およびアルバートドックその他の重要目標を爆撃、ロンドンの所々に火災を起さしめ、この外リバプール、ビリングガム、ニューカツスルならびに英國中部の港に對しても連續空襲を行つた 一、十八日中の撃墜損失は十六、わが方十三機

我が大使館にも飛火
情勢次第で郊外へ移轉

【ロンドン十九日同盟】在ロンドン帝國大使館は十八日夜の爆撃の餘波を喰つて窓硝子や壁をとに大損傷をうけたが十九日英國政府の避難勧告に應じ現在の場所から郊外へ移轉するはず

食料品貯藏庫
爆撃で憂無し

【ワシントン十九日同盟】アルの地階に一時移轉した、今後の情勢如何によつて郊外へ移轉するはず

大量の米、小麥
浦鹽向け發送

【シカゴ十九日同盟】最近七五万ブッセルに上るアメリカ太平洋岸の小麥がソ聯向けに

【ロンドン十九日同盟】十八日夜から十九日未明にかけて行はれたロンドン空襲で、獨空軍はまたソ聯はさらに浦鹽向けに大量に上る小麥の引合ひを出してゐるといはれる、一方ロンドン電はソ聯がアメリカ小麥の浦鹽向けに輸送するのにバルチック取引所で順當り一二、五〇仙の積荷契約を取り結んだと報じてゐる

輝く皇紀二千六百年
晴れの觀兵式擧行
參謀長に澤田中將決定

皇紀二千六百年記念觀兵式を擧行せられるに當りまして諸兵指揮官として朝香宮殿下を奉戴し不肖茂その參謀長澤田茂中將は廿日午後參謀本部で光榮に感激しつゝ左の如く謹話した

皇紀二千六百年記念觀兵式を擧行せられるに當りまして諸兵指揮官として朝香宮殿下を奉戴し不肖茂その參謀長澤田茂中將は廿日午後參謀本部で光榮に感激しつゝ左の如く謹話した

皇紀二千六百年記念觀兵式を擧行せられるに當りまして諸兵指揮官として朝香宮殿下を奉戴し不肖茂その參謀長澤田茂中將は廿日午後參謀本部で光榮に感激しつゝ左の如く謹話した

【東京廿日同盟】紀元二千六百年の記念觀兵式に光榮の諸兵參謀長を仰せ付けられた參謀次長澤田茂中將は廿日午後參謀本部で光榮に感激しつゝ左の如く謹話した

トピック解剖

フランスの對外政策

フランスのペタン政府のポードアン外相は昨十九日二つの軍大擧明を發してゐるその一つは合計六隻より成るフランス艦隊をダカール方面に派遣して、その方面においてイギリスがフランス植民地攻撃を企てゝゐるにたいしこれを制壓せしめるとともに、フランスのイギリス側のやりかたには義憤を禁じ得ないものがあるといふ事情を明らかにした

地中海の英艦隊
リビア沿岸猛撃

【カイロ十九日同盟英】近東軍司令部は十九日左の如く英軍の攻勢開始を發表した

伊軍を英及から驅逐すべき英軍の大攻勢はいよ〻〻開始され、空軍共力のもとに英の同地中海艦隊は英及リビア沿岸五百六十キロにわたる地帶の伊軍に對し砲撃を開始した

對英引渡し軍用機
月に五百機の割合
英の對米依存いよ〻〻强化

【ニューヨーク十九日同盟】米國航空商業會議所の非公式發表によれば、最近米國製軍用機の對英引渡しは一ケ月約五百機の率で行はれてゐると推定され、明年二月乃至三月までには一ケ月二千機に增加し得る見込みだといはれる、獨の空襲により英の航空機製作工場が米大型爆撃機の英國への輸送は英の生産高を遥かに凌駕するに至るものと見られ、航空機に關する英の對米依存は益よ强化されるものと見られてゐる

敗戰早くも見越し
英米聯合案の出現
チヤーチル首相、議會に確約

【ロンドン十九日同盟】アトリー國璽尚書は十九日下院に臨み、今後若し英米聯合問題が提起された場合には下院は必ず事前に慎重審議の機會を與へられようと次のごとく言明した

過般フランスに對して提案されたような聯合案が米國に對しても提案される際には議員諸君は事前にこの問題を徹底的に討議する機會を與へられるであらう、チヤーチル首相もかゝる重大な案が提出された場合これを討議に付すべきことを約する用意がある

偽政權の煽動に
武力で植民地保護
ペタン政府艦隊を派遣

【ヴイシー十九日同盟】佛ペタン政府は英國の援助を得たドゴール政權の各植民地攪亂工作に對抗すべく種々腐心してゐるが、ポードアン佛外相は十九日植民地の領土保全のため、これに反する挑發行動に對しては、對獨伊休戰協定の許容する範圍において、すべての武力を動員し對抗する決意ある旨言明、泰國の矢地回復要求に對する拒否もこの見地にもとづくものであると述べた

【ヴイシー十九日同盟】ポードアン佛外相は十九日擧明を發し、佛政府はアフリカ西海岸における最近の事態に鑑みアフリカにおけるフランス領民地を英國の煽動攪亂より救ひこれを保護するためダカールに向け巡洋艦三隻、驅逐艦三隻合計六隻を派遣した旨公表、有佛艦隊は九月上旬ジブラルタル海峡を通過したがなんら海軍の妨害をうけなかつたと附加した

來季米棉の販賣割當て

【ワシントン十九日同盟】アメリカ農務省は十九日一九四一年度棉花販賣割當量を前年と同量の一千二百万梱と發表し同時に販賣割當施行に關する農家の一般投票を來る十二月七日に行ふ旨發表した

泰國の失地回復
更に新要求を提出

【東京廿日同盟】東亜所報、香港に達した情報によればタイ國政府は佛印に對しさきに拒絶された失地回復の三要求に附加さるべき新要求を提出した、即ちタイ國政府代表はタイ國のフランス公使館を訪問し口頭をもつて新要求を提出したものであると傳へられる

英米共に頼み難く
佛印今や孤立無援
本國政府全く諦めの態

【ヴイシー十九日同盟】ボードアン佛外相は十九日午後ひきつゞいてフランスの現在極東において目下孤立の狀態に陥つてゐる、かゝる情勢にある以上印度支那現下の問題に對しフランスとして現實的な態度をとるのは已むを得ないことである、從つてまたフランスの決定が獨米聯邦に不愉快なものにしろフランスが寄越した批評を受けるべきいはない、何故ならば假に佛印が攻撃を受けたとしても米國からは正式抗議をしてくれる以上の約束を得てゐない、單なる口頭の抗議では佛印の事態に何ら寄與しないのである、現在のフランスは極東において弱力の空虚海軍を有してゐるに過ぎない且つ英國の在支駐屯軍撤退及び米國の現狀維持聲明のための實質的援助を拒否したことによつて一層その地位は弱體化してゐるのである

現下諸問題めぐり
對英戰秘策を練る
獨伊外相會談の內容

【ローマ十九日同盟】ムソリーニ首相とリッベントロップ獨外相との會談內容に關し當地消息筋の觀測を綜合すれば左の通りである

一、ジブラルタルを陸上より攻略するため獨伊兩國は共同してスペインに對し軍隊の領內通過を容認せしむべく說得し、これが代償としてスペインに對しジブラルタルの領有を認めること

一、イタリアのエジプト作戰が成功した暁豫想される英國のギリシヤ、トルコ兩國に對する策動に備へるための獨伊側の對ギリシヤ、トルコ政策

一、驅逐艦譲渡ならびに洋基地問題に關する英米協定成立以來の米國の動向

一、フランス全土ならびに佛領北アフリカの占領

なほ右のムソリーニ、リッベントロップ會談の結果、さらに近く、ヒトラー、ムソリーニ兩巨頭會談が行はれるであらうとの說が政界一部で取沙汰されてゐる

地中海の英艦隊
リビア沿岸猛撃

【カイロ十九日同盟英】近東軍司令部は十九日左の如く英軍の攻勢開始を發表した

伊軍を英及から驅逐すべき英軍の大攻勢はいよ〻〻開始され、空軍共力のもとに英の同地中海艦隊は英及リビア沿岸五百六十キロにわたる地帶の伊軍に對し砲撃を開始した

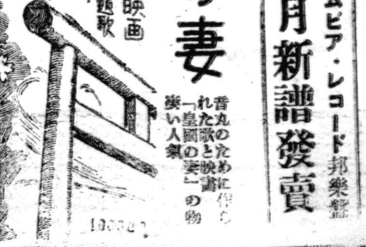
皇國の妻

コロムビア・レコード邦樂盤
九月新譜發賣

コロムビアの「皇國の妻」主題歌

松竹大船映画「皇國の妻」主題歌

晴れた歌と映畫「皇國の妻」の物凄い人氣



サア！ コロムビアが張つた豪華陣出た！ ——九月新譜——

番號	種目	曲目	演奏者
100042	流行歌	松竹大船「皇國の妻」主題歌 麦の音	霧島昇 丈
100001	同	ふるさと通信	霧島昇
100041	同	アリラン・ブルース	高峰三枝子
100045	同	樂しき喫茶店	中野忠晴
100041	同	東寶映畫「新妻鏡」主題歌 新妻鏡	霧島昇 二葉あき子
100001	同	燃ゆる人生	霧島昇 岱平、晃
100045	同	赤城ブルース	霧島昇
100041	同	乙女道中	菊池章子
100045	同	噫興亡二千年	伊藤久男 渡邊はま子
100045	同	蒙古の花嫁さん	佐々木孝丸
100041	同	ちやつかり節	菊池章子
100041	同	潮來さゞ波	天野幸子
100041	同	ドンドコ小僧	天野幸子
100041	同	可愛い金魚	東家三樂
100041	同	義士外傳の內 加茂の夜嵐	東家三樂
69774	童謡	愛樂かつら（完結篇）（後篇）	泉時郎
69723 69724	映画 流花節	明說	砂川捨丸 中村春代
150060 150061			獅子舞大樓
150066	才	かつぽれ、かつぽれ	獅子舞大樓
69272	落語	ケチンボ	コンクール

スールブ・ンラリア

トントン トントン
單純なる砧の音から生れる半島獨特の音調
アリラン ブルース
はこの單調さを軍にして半島情緒を多角的に盛られた服部良一の傳作です
…高峰三枝子…

赤城ブルース

霧島昇は股旅ものが十八番ましてや赤城と聞けば飛びつくのが男の心情！

三樂の浪花節

義士外傳も多いがこんなに內容と演者の氣がぴつたり合つたのは少ない三樂久々に會心の名作盤……

お申込次第カタログ進呈致します

ブラジルコロムビア邦樂盤
發賣元 日伯社
郵函 三七五

Chiang-Kai Chek obrigado a mudar novamente a capital

重慶政府の移轉先

（香港廿日同盟）わが陸海空軍の間斷なき猛爆により重慶再建を斷念する蔣政權首腦部は過般來遷都地點について種々研究を重ねつゝあったが、重慶來電によれば國防最高委員會は西昌（元四川省で現在西康省に編入）を新首都に、また甘肅省天水を重慶と並んで陪都とするに内定した

首都再建を斷念し 西昌（西康省）へ遷都急ぐ

防空設備や車道を改修

西昌は目下行營主任を張德林に命じ飛行場の擴大と防空設備の強化を急がせ、交通關係では康定、西昌、崑明を運ねる自動車路の改築工事を進めてをり、これらが完了すれば重慶郊外に分散せる殘存黨政軍機關は早晩同地に移轉するものと見られる

崑明行營滇越鐵道運輸司令部を組織し、佛支條約に從って同線に關する一切の事務を管掌せしめることゝなった、よって本鐵道に服務するフランス籍從業員に對しては、中國人職員と同樣の待遇を與ふべく、もし職務を怠って軍事輸送を誤り、又は機密を漏洩するものに對しては軍法をもって處斷す

殘された空の脚

唯一の對外ルートを開設 今度はソ聯と結ぶ

【上海廿日同盟】ハノイ、重慶間の中國、歐亞兩航空公司の殘存航空機の中止により重慶政府では殘された對外航空ルートたる中ソ航空路の擴大强化に努力しつゝあるが、最近交通部航政司と中ソ航空公司との合辦により重慶、昆明（ハルムチ）を經てソ聯領アルマタに至り、同所よりソ聯旅客機と連絡しモスクワはじめソ聯各都市と結ぶもので毎週二回、同航空路は重慶より甘肅の蘭州、新疆の烏魯木齊、由化の一回である

滇越鐵道は俺のもの 支那側、佛印をなめる

佛人從業員も軍法の配下

【香港廿日同盟】重慶中央通信電によれば重慶外交部當局は滇越鐵道嵐明河口間の接軌問題及び老開河口間鐵橋破壞に關し、右は專ら支那側の責任に歸し、佛は自衛措置にかゝり、鐵道の接收部分が支那側領土内にある以上緊急時の必要に應じて自ら管理運用する權利があるとの談話を發表したが、同時に

地方行政を復興 還都後の國民政府

先づ安徽省から改組の手

【南京十九日同盟】國民政府は還都以來地方行政復興について積極的運動につとめ、すでに國民、江蘇兩省政府の改組を斷行したが、今回さらに安徽省政府を改組し、主席以下九名の省政府委員を決定發表した

軍票の優位を認め

法幣と平等に使用するな 軍當局から注告

【南京十五日同盟】法幣相場の落調により軍票は强調の一途をたどり、つひに對軍票は七十圓關門割つて事變以來の記錄を示現するに至ったが、これに關し軍當局は、十九日左のごとき見解を發表、在留邦人の軍票工作に對する一層の協力を要請した、最近は全て當局の謀工作が効を奏し、軍票價値は頓に高騰をつゞけ法幣百元に對し七十圓程度にまで上押へ、なほ先行强調を持續してゐる、これに伴ひ軍票流通部面もまた急激に擴大せられてゐるが、市井一般の取引日常生活の實情などを見るに、いまなほ軍票價値の高騰を現實に活用することなく法幣立ての物資購入に當り渾然軍票と法幣とを等價に使用し、あるひは現實の相場に卽應せざる不利なる相場によって換算使用してゐるものすくなからず、かくては軍票價値の優位を自ら意味なく放棄するものにして、軍票價値の普及徹底を阻止するものといふべく、自ら經濟上に不利を招きつゝあるはもとより、軍票流通工作上遺憾に堪へぬところである、現地邦人は軍票工作協力の觀點からするも、自己の利益擁護の觀點からするも、法幣立て物資の購入に當つては必ず當地の軍票相場に換算した上軍票をもって支拂ひ、いやしくも不用意の間に軍票、法幣等價または不當なる相場に換算して使用するがごときことなきやう努められたい

戰後の情勢に對應 貿易體制も建直し 財界方面早くも本腰

【東京廿日同盟】わが財界方面では今次世界經濟情勢の變化に對處するためには貿易政策において舊體制を一擲し來さるべき世界經濟情勢の變化に對應し、自己經濟上に不利を招きつゝあるはもとより、軍票流通工作上遺憾に堪へぬところである、現地邦人は軍票工作協力の觀點からするも、自己の利益擁護の觀點からするも、法幣立て物資の購入に當つては必ず當地の軍票相場に換算した上軍票をもって支拂ひ、いやしくも不用意の間に軍票、法幣等價または不當なる相場に換算して使用するがごときことなきやう努められたい

揚子江下流のわが綜合戰果

昨年十月以降 本年八月まで

【上海廿日同盟】揚子江下流方面の昭和十四年十月以降十五年八月までのわが綜合戰果左の通りである

一、抗戰敵兵力八六九、七〇〇
一、交戰回數三、〇九四
一、敵遺棄死體五九、〇〇〇
一、捕虜六、五四一
一、鹵獲兵器、小銃一一、二二五、輕機三、五一〇、重機八三七、追擊砲五七〇、山砲九

なほ中支方面八月中の戰果左の如し

一、交戰回數四〇七
一、抗戰兵力四九、二六八
一、敵遺棄死體二二、九三七
一、捕虜四、一六一
一、鹵獲兵器、重輕機一六、小銃八三二

封鎖艦艇の活躍

中支沿岸を猛攻 敵の再建企圖忽ち挫く

【○○基地廿日同盟】わが海軍沿岸封鎖艦艇は十七日來連日温州、松門、海門、石浦の諸港灣を砲擊、左の如く多大の戰果を收めた

一、十七日温州南方黃蕉村の敵軍事施設を砲擊多人の戰果を收めた

一、十八日温州灣内の崎頭村敵據點を砲擊粉碎した

預金の自由尊重 引出し制限に反對

河田藏相重ねて表明

【東京廿日同盟】東京銀行倶樂部の閣僚招待晩餐會は十九日同所に開催、河田藏相より金融會新體制促進演說が行はれたのち、同氏は過日廣瀨大藏次官より行はれた聲明と同樣預金の自由性につき次のごとく重ねて表明を行ひ注目を惹いた

預金の自由性に檢討を加へ貯蓄預金の引出しを制限すべしといふがごとき說をなすものがあるように聞いてゐるが、預金の自由性は申すまでもなく、貯蓄增加の基礎をなすものであって、これに制限を加へるがごときことは全然政府において考慮しをらざるところである

歐洲に居殘る郵船 それ〴〵出港決定

箱根丸は今日出帆

【リスボン十九日同盟】一ケ月余りリスボンに待機してゐた郵船箱根丸はいよ〳〵來る廿一日歐洲からの引揚邦人を收容してニューヨーク經由歸國することになった、一方最後の日本船として英國にわたり幾度かその安否を氣遣われた「訪丸」も引揚邦人約四十名を乘せて、すでにグダンを出港、廿日頃當港着の豫定で、これはアフリカ經由で日本に向ふ、この他廿日下リスボンに待機中の箱崎丸、グリーン丸などがあるが、これらの船に乘船豫定のフランスその他からの引揚げ邦人は目下のところでは四十名に達し續々と乘込んでゐる

海鷲引續き中支に奮迅

【○○基地廿日同盟】廿日浙贛鐵道沿線方面に出動のわが海軍航空隊は連日諸警附近の敵軍事施設の攻擊を實施しつゝあるが、十八日は諸警驛構内の貨物滿載の貨車を爆擊十輛を爆破炎上せしめ、附近鐵道六ケ所を切斷、さらに倉庫一棟を炎上せしめ、十九日は諸たん南方を進行中の軍用列車を爆擊莫大なる損害を與へ、また同日靈水北西約五キロ谷間の燃料貯藏庫を爆擊貯藏庫三棟及びドラム罐置場四ケ所を炎上せしめた

船腹の心配無用

海運協議會で太鼓判 十月分配船計畫を審議

【東京廿日同盟】海運統制協議會は十九日運信省で開催、十月分配船計畫を審議したが十月は外國傭船、新造船の增加および北洋漁業船の復歸等により廿數万トンの船腹增加を見越し得るので、石炭、鐵鑛石および砂糖の輸送增加にふ

的根據を持つ强力なる輸出振興促進機關の設立が緊要なりとし、このため財團法人日本貿易振興協會を新に結成することに決定、既に去る八月下旬小林商相より設立認可を受け目下その登記手續き中であるが、本協會は基金一千萬圓とし戰後貿易確立のほか貿易の技術方面に關する科學的調査研究などにも資する筈である、右協會設立の曉は現在の日本貿易振興協議會は解體する予定となってゐる

予より戰後貿易の根本的計畫を樹立すべく各方面と協議を進めた結果、從來の日本貿易振興協議會の如き資金の貧弱なる任意團體ではかゝる當面の大使命を完遂することは到底不可能なので、この際法

九月中旬 本邦對外貿易

【東京廿日同盟】大藏省發表九月中旬における本邦對外貿易概算左の如し（單位千圓）

輸出	八八、八九七
輸入	八〇、一六九
合計	一六九、〇八六
出超	八、六九六
一月以降累計	三四四、一六七

貴族院議員 紀敏秀男

【東京廿日同盟】貴族院議員紀敏秀男は十九日の第十二回敎育審議會に出席中腦溢血で倒れ、虎の門佐田病院に收容、廿分逝去した、享年七十四

建國忠靈廟鎭座祭

【新京廿日同盟】建國忠靈廟鎭座祭の盛儀の最終日廿日は謝神の儀が嚴かに執り行はれ午前十時遺族はじめ、文武百官參列、正副總裁の祭詞奏上參列諸員各代表の拜禮あり、壯嚴盛大を極めた鎭座祭の盛儀は興亞全民族感激裡に終了

Dr. Adolpho Bettiol Guido
Rua da Gloria, 734 S. Paulo
齒科
口腔各種齒科治療
各種義齒製作
絶對無痛治療
米國式
診療時間……八時半より午後九時迄
日本人の皆樣へは特に安く可成丁寧に致します

古
レコード高價買入
蓄音器、レコード專門
三浦愛蓄堂
聖市ドトール・ルンド街二九

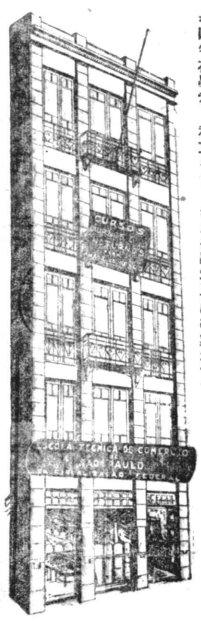
石計品用
寶時時答
十回賦拂の便あり
CASA MASETTI
R. Seminario, 131-135

Dr. Pasqualino Nucci
R. Luzitana, 1152
Campinas
診療時間
午前九時至十時
午後三時至五時半
一般外科
整形外科
骨骼炎、關節炎
挫骨

泉川式風呂竈
永年の經驗の結果最も實用衞生的且優美堅牢なる改良品で然もお安く極く僅の炭で二十分で沸ます
泉川製作所
聖市コンセリエイロ・フルタード街六番
電話二一七六五九番
郵函二四七二番
鮮魚問屋
坂井兄弟商會
漁獲部 坂井保芳
サントス市ポンタ・ダ・プライア（サントス漁業組合所在地）
販賣部 坂井芳信
サントス・メルカード・ペンカ二五
御贈答はメルカードの方へ
Yoshinobu Sakai
Mercado Banca, 25
SANTOS
醫療器
鍼灸細工一切
其他
二十才迄の青年二三名急募

BAR e REST. LEÃO
Av. S. João, 284
Pegado ao Correio Telegr.
何時も
暖い食事
タンバ半立
一ミル六〇〇
求指物師
請負仕事、一日二十ミルより二十五ミルの利益あり
大至急求む
Rua Visconde de Abaeté, 179
Braz

Escola Técnica de Comércio de São Paulo
… 聯邦政府監督 …
Rua 11 de Agosto, 138
Junto á Praça da Sé
晝間夜間部に席が無い爲、今般朝間部を新設致す事になりました
商科、中等科一學年入學準備科の入學受付を開始致して居ります、資格は男女共現在グループ四年在學者、私立コレージオ在學者又は卒業者です
校學業商ロウパウロサンパ



紙函
聖市グリセ・オ街二七四・七四
長田エストジョ製作所
郵函三一〇九番
電話七・二六七四番
電話七・二六七番
齒科古澤
ブタンタン大通り中間コチア道の向側
エステヴァン・ロウペス街一七
Casa Rambaldi
本店 Rua Liberdade, 472 - Tel. 2-1424
支店 A Italo-Brasileira Quint. Boeayuva 233 Tel. 2-7094
家具及絨毯
御支拂には御便宜をはかります

死亡廣告

當組合敎師長谷川織次郎先生は兼て御病氣入院御療養中の處藥石効なく昨十二日午後四時二十分遂に御逝去い・たされ候、仍て翌十三日午後三時本組合葬を以てリノポリス共同墓地に埋葬仕候

右生前厚知諸彦に謹告仕候也

追而送葬の際は御多忙中にも不拘御會葬を辱ふし盛儀相營み候段謹んで御禮申上げ候

昭和十五年九月十三日

リノポリス組合代表　國米愿一
リノポリス興亞植民地代表　近澤恒信
リノポリス　桂川禮次
リノポリス青年會
リノポリス小學校　兒童一同

御知らせ

夫織次郎儀兼而病氣入院加養中の處昨十二日午後四時二十分遂に永眠いたしました、仍て翌十三日午後三時自宅出棺リノポリス共同墓地に埋葬いたしました、右生前御懇意に預りました皆樣へ御知らせいたします

追而送葬の節は特に組合葬を辱ふし盛儀相營み御厚情の段不堪感銘に謹んで御禮申上げます、尙御多忙中にも不拘皆樣の御會葬を辱ふし且御香料を戴きました段右失禮ながら紙上を以て御厚禮申上ます

昭和十五年九月十三日

妻　長谷川翠子
長女　幸子
次女　宏子
同　洋子
親戚總代　長谷川德造
リノポリス組合代表　國米愿一
リノポリス興亞植民地代表　桂川禮次
英亞植民地代表　近澤恒信
太人總代　伊藤達
北家　梶勘一
川泉　馬信

夫八郎儀陳てより病氣加療中の處療養不相叶去る十三日午後一時遂に永眠仕り翌十四日カフエランジア墓地へ埋葬仕候

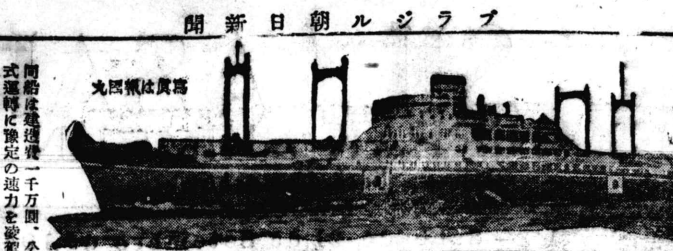
送葬に際しては御多忙中にも不拘遠路態々御會葬被下倘又多大なる御香料を辱ふし厚く御禮申上候、一々參上御禮申上ぐるが本意なれ共不敢取紙上を以而右御禮旁々生前厚知諸彦に御通知申上候

昭和十五年九月廿日

妻　小島トシ
長女　保可
次女　一永
三女　キヨ子
四女　昌美
親族　岡本宗一
友人　栗田俊春
栗田辰五郎
重本智吉
松永末
前原主一
金子喜代藏
世話人　カフエランジア青年會

神經失らす英領土の各港
他國船へ油、水の供給禁止
宮原船長：苦悶の英國を語る

戰亂の海乘り越えて
報國丸
颯爽と入港



「日の丸」船隊に新しい威力を加へる大阪商船が誇る新造船「報國丸」（一〇、五〇〇トン）は荒天のため豫定より一日おくれ昨二十日午左右剛紘の「日の丸」も鮮やかに颯爽とサントスへ入港した、大阪商船では同日午後一時半同船に内外新聞記者四十餘名を招待し處女航海の披露宴を催したが、戰時下貿易陣の先驅として晴れの入港にこの日のミナトの話題は報國丸に奪はれたかたち

マートナ船艙機構など得意の味を出してる、船客收容數は一等四八名、特別三等四八名、普通三等（甲組）一〇〇名、乙組二〇四名となつてゐるが、普通三等は亞國からの牛皮、シャルケ伯國からは綿が一ぱいに積み込まれる由

船長は世界一週船あふりか丸の名船長として歌伯同胞とも馴染みの深い宮原裕氏で「あふりか航路で世界中これ以上の豪華船はどこにもなく斷然ブルー・リボンを掌握します」と自信たつぷりの前置きして語る

「ケープタウンで時化に遭ひ一日おくれて記錄はつくられませんでした、途中歐洲大戰の影響を相當受けるものと覺悟してましたが、大したことはなく、各寄港地でも上陸出來ました臨檢など受けませんでした、マダガスカル沖では英船が擊沈されたすぐあとを通りました丁度ブエノスに入港した折英國は今後その領土内各港で英船以外のものには油及び水の供給を禁止するといふ電報を受取りました、英國の苦悶は想像以上のものがあります、そのため、先達つて出例した「あるぜんちな丸」もポート・オブスペインで水の供給を受けられず相當困つたらしいです、云々」

北伯←日本
貿易增進に寄與

昨二十日の報國丸披露宴席上大阪商船矢田支店長は左の如く挨拶を述べたが、報國丸をはじめ目下建造中の同型姉妹船二隻は同氏が十五年前本社に在勤中、早くもこの新造計畫を立案したものだが、それが十五年の今日實現され、生みの親の矢田さんは感慨たる報國丸の船上で感慨無量であつた

新しく貨客サービス開設
報國丸の生みの親・矢田さん感慨無量
アフリカ航路歸りはパナマ經由

報國丸船上に諸賢を御招きし御盃を乞ふことが出來ました事は私としまして真心感謝に堪へません

同顧すれば一九一七年即ち大正六年弊社が南米航路を開設して以來御承知の如く世界狀勢は幾多の變轉を來しましたが、此間弊社は常に極東と東、南阿南、北米間の貨客輸送に對し最善のサービスを捧げて來たのであります

弊社阿弗利加線は最初日本―阿弗利加間の貿易增進に資すべく開設されたものでありますが

（南米貿易）の重大性に鑑み遂に南米近延航せらるゝ樣になつたのでありまして實質上南米航路であります弊社は此の阿弗利加航路經營に當つても常に最大の犧牲を拂ひ使用船も漂亮優秀なものと入替來つたものでありますが、今回現下世界動亂の最中にも不拘、最新鮮麗の一萬五百噸級豪華船報國丸を就航せしめ次で第二船愛國丸、第三船興國丸も引續き就航せしむる予定であります

茲に一言申上げ度きは之等三船の船名でありまして聖戰下、大東亞建設の一翼としてある皇國海運の一翼として特に報國、愛國、興國と日本精神を體して命名し世界海運界に雄飛せんとする覺悟の一端を示したものであります

弊社阿弗利加線は單に日本南米、阿弗利加間の貿易にのみならず進んで弊社南米線が南米、北米間貿易に貢獻し居るが如く、又南米より阿弗利加、印度、南洋方面の貿易增進に格段の役割を演じつゝあるのであります

此の機會に申添へて置きたい事は本年度より弊社がパナマ運河經由東航南米線の名の下に新しく貨客サービスを開設した事でありまして之は日本と太平洋諸國一繋に逃れて行つてもらひたいとのこと

（貢獻する）

（貿易）

（新船計畫）

たのであります以上の各航路就航船は凡て設備優秀且つ高速度のもののみに其の合計噸數は十數萬噸に達し、其の他貨物船も多々配船、實に斯る優秀船體綜合配船は世界にも餘り類例なく、弊社の誇りとする處であると共に弊社が南米航路の經營に如何に力を注き居るかの證左と申して支へなき處と存じます

私個人としましても前記新造三船に對しては非常な興味を持つて居るのであります、十五年前本社に勤務中此の

（蔬菜部）

（コチア）

（蔬菜部調）

を既に立案したのであります

賓の通りの優秀大型船が完成され慮らずも當伯國に於て私多年の念願が實現せられたるを見る邪は洵に感慨無量なるものがあります

何卒今後共一層特別の御高庇を御願ひ致す次第であります

喜べサラリーマン！
飛切り上等二十五ミル也
チエッコの靴屋さん聖市に進出

チエッコのバワタ資本が、ブラジルに進出、大規模な靴製造株式會社を設立してブラジルの一般民に安い靴を提供しようと計畫、既に着々その準備中であるが、最近いよ〳〵試驗的に製造を開始することゝなつた、工場は聖市アグアブランカ區に設定、先づ最初手はじめに資本金一〇〇コントを用意、伯國人の夫人を同伴繪葉書を送つてゐる大橋氏

大橋畫伯夫妻
一先づリオへ

大橋氏は船上で語る

ブラジルは妻の故郷でもあり、また私がパリ留學時代一緒に遊んだり勉强したりした伯國人畫家たちも當地に居るので、久し振りで舊交を溫めることが出來るのでは楽しいです、妻の作品とも二百點餘を持つて來ましたが、當地でもウンと畫き在留同胞の肯樣の應援で展覽會を開きたいと思ひます

エレナ夫人も七年ぶりに見る故國の空に胸をワク〳〵させながら流暢な日本語で二父が昨年亡くなつたので逢へないのは遺念ですが、夫と共に當地で深山畫いて展覽會をやるつもりです、どうぞヨロシク……」と如才のない處を見せてゐた

（寫眞は大橋畫伯夫妻）

元手は舌一枚
この手に御用心

二、三日前聖市に出て來たノロエステ線ビリグイ驛アレグレ植民地居住赤間政平さん嬶鳥驛大（墨）は用建中ルス驛前で廿六、七の一見貧面目さうな痩形の青年に言葉を交さ

進め！使命の達成へ
「正しい治療、優しい看護、明るい病院」
決つた日本病院標語

内容の充實と共にその運營も漸く軌道に進展しつゝある日本病院では、嘗て「我等の日本病院」本然の使命を十二分に象徵する標語を一般在留民より募集してゐたが、この企は在留民に意外の反響を呼んだ、〆切りまでに應募者總數二千を突破した、これ等は總て日本病院に寄せる在留民の熱意を反映、ひやかしに類するやうな應募など一つも見當らず、中には標語に添えて十ミルの寄附を同封して來た人もあつた位ひで、この熱意には今更ながら病院關係者を感激させたが、去る十八日夜成瀨領事始め幹部員の手によれば、厳選に厳選を重ねた結果左の六つの標語が入選した

▼一等「正しい治療優しい看護、明るい病院」ボンペイア和田善久

▼二等A「護れよ頼れわれらの病院」ロシニヤ岩波八汐

▼二等B「保健の殿堂感謝で利用」サン・ミゲル關家穀

▼三等A「みんなの病院みんなで活かせ」聖市松永良二

▼三等B「忘るな健康活せよ病院」サン・バルトロメウ實森清

▼三等C「異郷に安し吾等の病院」聖市春原武穀

頑張れ同胞！
聲援は海を越えて
▼……母國で日本病院披露會

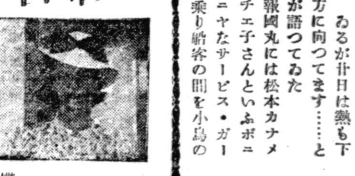
「我等の日本病院」建設については母國に於ても外務省アメリカ局第二課内に建設後援會が設置され寄附金募集などに力瘤を入れ寄附金も豫定額の四十万圓を突破するほどの熱意を寄せたが、今や日本病院の使命達成のためなる充實、在伯同胞の保健中樞機關として恥づかしからぬ存在となりつゝある折柄、母國外務省に於てもこれ等同病院建設事業に多大の後援支援を寄せた人々に謝意を表するため東京、大阪、神戸の三都で「我等の日本病院」披露會を催した、先づ東京では去る六月二十七日外務次官官邸に東京、名古屋その他地方の後援者を招待、後援會副會長德川頼貞侯、平生釟三郎氏など三十四余名出席、谷次官より病院建設出來たのでありますが、今回現下世界動亂の最中にも不拘、最新鮮麗の一萬五百噸級豪華船報國丸を就航せしめ次で第二船愛國丸、第三船興國丸も引續き就航せしむる予定であります

茲に一言申上げ度きは之等三船の船名でありまして聖戰下、大東亞建設の一翼としてある皇國海運の一翼として特に報國、愛國、興國と日本精神を體して命名し世界海運界に雄飛せんとする覺悟の一端を示したものであります

弊社阿弗利加線は單に日本南米、阿弗利加間の貿易にのみならず進んで弊社南米線が南米、北米間貿易に貢獻し居るが如く、又南米より阿弗利加、印度、南洋方面の貿易增進に格段の役割を演じつゝあるのであります

此の機會に申添へて置きたい事は本年度より弊社がパナマ運河經由東航南米線の名の下に新しく貨客サービスを開設した事でありまして之は日本と太平洋諸國一繋に逃れて行つてもらひたいとのこと

彩管使節



長期間

▽…乘船するとすぐ急性肺炎で寢込んでしまつた内山亞國公使、報國丸の特別室なる奈良で靜養してゐるが廿日は熱も下り快方に向つてます……と夫人が語つてゐた

▽…報國丸には松本カナメ高杉チエ子さんといふポニチンニヤたちサービス・ガールが乘り船客の間を小鳥の樣に飛び廻つてなごやかな空氣を漂よはしてゐる

▽…これも報國丸の話――宮原船長は日本新聞社長翁長さんより商船學校時代一級下の後輩、披露宴に出席した翁長さんと三年振りの奇遇にビツクリ、懷きぬ昔語りをやつてゐた

▽…一昨夜十時頃のこと、大正小學校の夜學からの帰りらしい本を小わきに抱へた邦人モツソ、グロリヤ揚の電車停留場に立つてゐた外人モツサがいきなり怪しからぬ振舞ひに及んだと目擊者が憤慨してました

▽…郊外サンベルナルド驛ピラ・ボリンニヤ共榮青年團は本年六月創立されたばかりだが、過般の母國觀光團に托し共同作業で得た五百ミルで慰問袋を作り皇軍將士へ送つたが、今度は學術講演を開き同地日本人小學校教師神尾亮三、同イソ子先生の指導で「御破算で願ひましてはパチパチ……」と算盤の練習始めてゐる

▽…南拓支配人井口氏がアマゾンから來聖目下滯在中

▽…伊藤忠商事サンパウロ駐在員今泉操氏が十二月に帰る事になつた、こんどは商賣もデツカクしてお目見得しますと

▽…郊外サンベルナルド驛ピラ・ボリンニヤ共榮青年團は本年六月創立されたばかりだが、過般の母國觀光團に托し共同作業で得た五百ミルで慰問袋を作り皇軍將士へ送つたが、今度は學

市況

（廿日）高値　安値

▼アロース　▼アグーリヤ（上等）　▼ブランコ（上等）　▼カテ（上等）　▼フエイジョン　▼ムラチー（上等）　▼同（中等）　▼ミーリヨ　▼マレーリヨ　▼クリスタル　▼バタタ　▼アマレーラ（上等）　▼ブランコ（中等）　▼マンカ粉　▼モナ　▼棉實　▼アメンドイン（上等）　▼セボーラ　▼砂糖　▼フエイジョード（特上等）　▼フエイジョード（上等）　▼クラスタル　▼小麥粉　▼珈琲　▼棉花

▼野菜部（蔬菜部調）（コチア）　廿日　高値　安値

▼トマテ（箱）　▼レボーリヨ（袋）　▼エルヴイリヤ（箱）　▼ビメントン（箱）　▼バージエン（箱）　▼ベビーノ（箱）　▼バタタドーセ（俵）　▼ポブローラ（東）　▼セノーラ（東）　▼コーベフロール　▼ナス（箱）　▼玉子（打）

右木炭自動車は聖市―クリーバ間五百キロを十六時間で辿ばしたその間木炭三百五十キロを消費した、なほこれら木炭自動車の走破延長キロ數は二、三七〇キロで所要時間七五時間四五分、各自動車木炭消費量は一、六八〇キロ

木炭自動車
宣傳五百粁の旅

過般聖市商業會より派遣され聖州バラナを廻つて聖カタリナ州に出たのであるが、青年は田舎に行つて百姓をしたいが宿に廿ミルばかりの借金があるから支拂つて自動車は去る十九日リオ市への帰途を聖市に立ち寄つた、

寫眞家
平井
FOTO-IMPERIAL
Rua Irmã Simpiciana, 120

貸家
ピラ・マリアナ、ギマランエス・パツソ街五番地の近代式美麗な住心地よい家、小家族に若夫婦向き、鍵は左記へ
R. Guimarães Passos, 3

金
ダイアモンド、モンテソロ、質札、寶石、銀、白金高價買入れ
ブラジル銀行認可
Del Monaco
R. Alvares Penteado, 203 (ant. 29) s. ant. sala, 6

御婚禮、御祝儀、お土産に
惠比須屋
聖市トーマス・デ・リマ街二八三（郵函三六八）
電話 2-2194

洋食
各種料理、御注文に應じ調理致します
聖市ピニヒロ・ド・ポンテ・デンコ山前二四七四……で話電はルアー街五十四

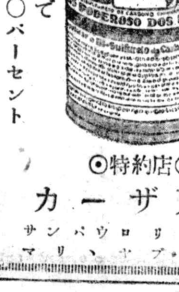
詩司
女中さん入用
聖市タマングレ街三四六
富士屋運動具店
電話 七―六九五六番
Tomizo Takeda - Rua Tamandaré, 346

急募
經驗の有無を問はず十四、五才以上青年、四、五名
チンツラリア・ミモザ
アラメダ・ロレーナ一二一一
電話 七―二八二六

KANAKAO S. A.
肥料、農具、藥品、ニカワ
カ・ナカオ化學工業株式會社
サンパウロ市テオドロ・サンパイオ街二七五六番
郵函 二一八六番　電話 九―二五八七番
支店 イタプーラ・ミランダ街一七―一九
電話 二―六六三七番

劍道防具
胴、面、たれ、小手以上四品　貳百八十錢
野球用具
青年用壹組　割引値段　六百錢
聖市タマングレ街三四六
富士屋運動具店
電話 七―六九五六番
Tomizo Takeda - Rua Tamandaré, 346

歸國手續、商業登錄、其の他一般手續
あぶす旅館
聖市オンゼ・デ・アゴスト街三四番　電話三―五三〇番

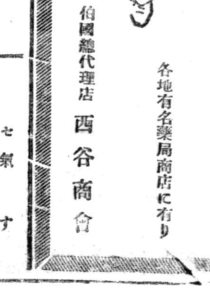
サウバ根絶には二硫化炭素を！
……純良二硫化炭素劑で經濟的効果一〇〇パーセント
クアトロパウは……


⊙特約店⊙
山東ザーカ
サンパウロ・ランス・マリ、ヤ・プラデンテ

Bar e Restaurante
Pan Americano
R. Xavier de Toledo, 47 e 51
聖市上流社會人の集合所
アルモツソ・コメルシアル　六餅
ジヤンタール・コンセルト　七餅
午前八時より午後十一時迄營業

バタタ・アルゼンチーナ
アマレーラ・リーザ種子
優秀種子販賣、植えるだけになつてゐます
Rua Victoria, 365 - Tel. 4-4229 - S. Paulo

DIANA
レストラン・吹茶室・バール・ロチセリ・室内オーケストラ・優雅な雰圍氣
聖市に於ける唯一の安息娯樂所
夜の一時まで營業致して居ります
R. B. de Itapetininga, 111

仕事疲れを防ぎ
食慾を進める

エビオスは食物の消化を早め便通を整へて次の食事の時間が來る迄に、ほど良い食慾を齎らします
劇務後のいら〳〵した氣分、重苦るしげな疲勞感を快よく解消して常に樂しい朗かさを得させます
各地有名藥局商店に有り
伯國總代理店　西谷商會
スオビエ

Redacção e Administração:
Rua Maestro Cardim, 1109
Teleph.: 7-3325 e 7-3326 - Cx. Postal 375
SÃO PAULO-BRASIL

BRASIL ASAHI
EX-NIPPAK SHIMBUN

DIRECTOR: José Yamashiro

ASSIGNATURAS:
PARA O BRASIL Anno . . . . 60$000 / Semestre . 30$000
PARA O EXTERIOR - Anno . . 120$000
ANNUNCIOS — Fazer a disposição dos interessados uma tabella completa de preços por annuncio nesta folha

Anno 1 | São Paulo — Sabbado, 21 de Setembro de 1940 | Num. 50

NOTAS E EDITORIAES

O sr. Presidente da Republica assignou decreto reformando dois artigos da Constituição da Republica. Eis o teor do decreto.

"Artigo 1.o — O artigo 23 da Constituição fica assim redigido:

Artigo 23 — E' da competencia exclusiva dos Estados, salvo a limitação constante do artigo 35, letra "d":

I — a decretação de impostos sobre:

a) — a propriedade territorial excepto a urbana;

b) — transmissão de propriedade "causa mortis";

c) — transmissão da propriedade immovel intervivos, inclusive a sua incorporação ao capital de sociedade;

d) — vendas e consignações effectuadas por commerciantes e productores, isenta a primeira operação do pequeno productor, como tal definido em lei estadoal;

e) — exportação de mercadoria de sua producção até o maximo de dez por cento "ad valorem", vedados quaisquer addicionaes;

f) — industrias e profissões;

g) — actos emanados do seu governo e negocios da sua economia, ou regulados por lei estadoal;

II — cobrar taxas de serviços estadoaes.

Paragrapho 1.o — O imposto de venda será uniforme, sem distincção de procedencia, destino ou especie de productos.

Paragrapho 2.o — O imposto de industrias e profissões será lançado pelo Estado e arrecadado por este e pelo municipio em partes eguaes.

Paragrapho 3.o — Em casos excepcionaes, e com o consentimento do Conselho Federal, o imposto de exportação poderá se augmentado temporariamente além do limite de que trata a lettra "e" do n.º 1.

Paragrapho 4.o — O imposto sobre a transmissão dos bens corporeos cabe ao Estado em cujo territorio se acham situados; e o de transmissão "causa mortis" de bens incorporados, inclusive de titulos e creditos, ao Estado onde se tiver aberto a successão. Quando esta se haja aberto em outro Estado ou no extrangeiro será devido o imposto ao Estado em cujo territorio os valores da herança forem liquidados ou transferidos aos herdeiros.

Artigo 2.o — Fica redigido nestes termos o artigo 35 da Constituição:

"Artigo 35 — E' defeso aos Estados, ao Districto Federal e aos municipios;

a) — denegar uns aos outros, ou aos territorios, a extradição de criminosos, reclamada, de accordo com as leis da União, pelas respectivas justiças;

b) — estabelecer descriminação tributaria ou de qualquer outro tratamento entre bens ou mercadorias por motivo de sua procedencia;

c) — contrahir emprestimos externos sem previa auctorização do Conselho Federal;

d) — tributar, directa ou indirectamente, a producção e o commercio inclusive, a distribuição e a exportação, de carvão mineral nacional e de combustivel e lubrificantes liquidos de qualquer origem".

***

Do um communicado do Serviço Nacional de Recenseamento extrahimos o seguinte topico:

"Não se furta a um instinctivo movimento de admiração quem verificar, no espelho reduzido dos mappas ou na vastidão do nosso territorio, toda a verdadeira grandeza do Brasil.

Metade da America Latina, quinta parte do Novo Mundo e decima quinta de toda a superficie habitada da Terra, figura o Brasil, logo depois do Imperio Britannico, da U. R. S. S., da França e dependencias, dos Estados Unidos e dependencias e da China, como possuidor de um dos mais preciosos patrimonios territoriaes do globo, sendo individualmente o 3.o, após a China e o Canadá.

Trata-se de 8.500.000 Km2 cujos habitantes, vivendo em perfeita unidade nacional, falam a mesma lingua e commungam os mesmos ideaes de progresso e solidariedade. A um paiz desses estará reservado, de certo, grande e singular papel na evolução da humanidade.

Multiplicando-se em rhythmo sinuoso, repondo pelo dobro as baixas occasionadas em seus effectivos, o que quer dizer que a cada fallecimento correspondem dois nascimentos, a população brasileira constitue penhor seguro da continuidade indefinida do progresso nacional.

O Censo Demographico, um dos sete censos ora em execução, está arrolando esse elemento humano que valoriza as dimensões generosas do solo brasileiro. E mais tarde os que nos observam, no espelho reduzido dos mappas ou na vastidão do nosso territorio, hão de verificar que, ainda maior do que a grandeza continental do Brasil, é o seu povo, grande e varonil."

***

Do sr. Sul Mennucci, dd. Delegado Regional do Recenseamento, recebeu o director desta folha o seguinte officio:

"A perfeita realização dos Censos de 1940, dependia da bôa vontade e da cooperação dos multiplos componentes da sociedade brasileira.

V. S. numa demonstração de alto espirito civico, e grande patriotismo, veiu espontaneamente empresstar o seu valiosissimo apoio a esta iniciativa do Governo da Republica.

Por este officio, levamos os nossos agradecimentos a V. S. pela activa e desinteressada collaboração.

Attenciosamente,

Sul Mennucci
Delegado Regional do Recenseamento"

A situação precaria do governo de Chang

Declarações de um jornalista extrangeiro

Hong-Kong, 17 (Dômei) — Os bombardeios repetidos da aviação imperial, attingindo constantemente os objectivos militares chinezes, desorientaram de tal maneira as auctoridades governamentaes chinezas que aquelle governo não sabe mais que medidas tomar perante uma situação tão precaria. Um representante de imprensa extrangeira que esteve durante seis mezes em Chungking, capital do governo nacionalista, regressou recentemente a esta cidade, tendo declarado o seguinte a respeito da situação do centro da actividade anti-nipponica chineza:

"O general Chang-Kai-Chek ainda continúa, embora com enorme difficuldade, na sua imprudente lucta contra o Japão, porque teme que, entregando-se, virá, fatalmente uma subleveção contra elle. A situação aggrava-se cada vez mais em virtude do descontentamento existente no seio dos chefes politicos, causado pelo erro na orientação da direcção central. Outrosim, para o enfraquecimento daquelle governo, influiu bastante, a mudança da capital para o interior do paiz, desfazendo a bôa orientação dos varios estados. O governo central parece que já reconheceu a inutilidade da continuação da lucta, mas de um lado recebe forte pressão exercida pelos elementos communistas auxiliados pela U. R. S. S. no sentido de proseguir no seu plano anti-nipponico. Tudo isso tem exercido grande influencia para tornar cada vez mais precaria a situação do governo Chang. A esperança do chefe do governo nacionalista era, naturalmente, o auxilio das terceiras potencias, como os Estados Unidos, França, Inglaterra, etc., mas no estado actual das coisas, essas potencias estão longe da possibilidade de conceder auxilio a Chang.

Mesmo assim, ainda procura conseguir armas e munições para fazer face ás acções do Exercito Imperial. Com a interceptação da via Birma, planeja agora organizar uma nova rota dos EE. UU. via Vladivostok. No emtanto, a opinião reinante nos circulos populares é a de realizar negociações de paz com as auctoridades japonezas.

Actualmente os chefes militares de Chungking não procuram defender-se das investidas nipponicas mas e forçam-se mais em evitar qualquer levante interno, que pode apparecer de um momento para outro".

O encerramento dos trabalhos da Commissão Preparatoria

Assumptos debatidos pelo Conselho de Ministros
O controlle dos cereaes

Tokyo, 17 (Dômei) — Serão encerrados na sessão de hoje os trabalhos da Commissão Elaboradora da nova estructura politica imperial. Nessa sessão serão escolhidos tambem os varios membros directores da organização que vae gerir os negocios do novo regime. Dar-se-á tambem na mesma reunião, a escolha dos ministros de Estradas de Ferro, Ultramarino e do Bem Estar Social, pastas estas até agora a cargo de outros ministros, accumulativamente.

Tokyo, 17 (Dômei) — Realizou-se hoje ás 9,30 horas uma sessão ordinaria do Conselho de Ministros presidida pelo primeiro ministro Konoye. Acharam-se presentes todos os titulares com excepção do ministro do Commercio e Industria, Ichizô Kobayashi, que se acha actualmente nas Indias Hollandezas chefiando a Missão Especial Japoneza.

Abertaa a sessão o chefe do Departamento de Planos e Projectos Nacionaes expoz o plano das medidas a serem tomadas para o controlle do arroz e demais cereaes da safra de 1941. Sobre o mesmo assumpto, foram dados melhores esclarecimentos pelo snr. Ishiguro, ministro da Agricultura. Finalmente fallou o ministro da Educação sobre a organização da "Juventude Japoneza", encerrando-se a sessão ás 10,50 horas.

Recebidos em audiencia

por S. M. o Imperador
altos membros governamentaes

Tokyo, 16 (Dômei) — O presidente do Conselho de Ministros, principe Konoye, esteve hoje ás 15 horas no Palacio Imperial e recebido em audiencia especial por S. M. o Imperador, expoz minuciosamente o andamento da sua gestão politica. S. ex. respondeu tambem a varias perguntas formuladas por S. M.

Estiveram tambem no Palacio Imperial, onde foram recebidos por S. M., o ministro da Justiça, snr. Kawala e o snr. Hoshino, chefe do Departamento de Planos e Projectos Nacionaes, tendo elles apresentado á apreciação de S. M. o Imperador os respectivos relatorios.

NOVO BOMBARDEIO de Chungking, capital chineza

Nankin, 16 (Dômei) — Proseguindo na intensa offensiva, a formação aerea naval nipponica levou a effeito o 40.º raid a Chungking e regressou incolume, á sua base, tendo causado grandes damnos aos inimigos.

Consta que com o referido ataque a aviação imperial acaba de destruir cerca de 100 aparelhos inimigos.

O CONTROLLE DOS ARTIGOS DE ALUMINIO

Fundada uma organização competente

Tokyo, 16 (Dômei) — Seguindo as determinações da lei que regula a industria de metaes leves, deu-se hoje no Hotel Imperial a fundação da Companhia Nacional de Controlle de Aluminio. Nessa sessão foram approvados tambem os estatutos da novel organização e eleitos os seus directores. Coube o cargo de presidente ao sr. Noruteru Mori. Essa companhia, segundo informações de fonte auctorizada, iniciará os seus trabalhos no proximo mez de outubro.

Doravante, tanto a importação e a exportação como a distribuição e fixação de preços dos artigos de aluminio são controllados por essa organização.

O Resurgimento do Espirito Japonez

Chikao Fujisawa

Continuação (8)

Como corollario do *kôdo* tem de comprehender-se o *shindo*, ou a via dos subditos japonezes que, por sua parte, representam o principio retrocedente da *Kami-musubi*. Os subditos prestam, assim, a sua assistencia, a mais sincera quanto possivel, ao cumprimento da missão universal a que se dedica o nosso augusto Soberano. Só atravez da collaboração do *kôdo* e do *shindô* poderá ser promovida a evolução creadora da nossa nação, embora se guarde para sempre uma jerarchia invialavel entre o *Tenno* e os seus subditos. Esta ordem dynamica, estabelecida no nosso Estado Familiar chama-se *Kokutai*: é ella que constitue o alicerce da nossa educação nacional, educação que desafia o individualismo atomizador do campo moderno.

E' tambem a theoria do *musubi* que póde explicar todas as manifestações typicas das belas-artes japonezas, taes como o arranjo de flôres, a cerimonia do chá, a dança do *Nô*, o drama de *Kabuki* e os jardins adornados. Nessas deliciosas coisas, podemos apreciar um equilibrio exquisito entre a força vigorosa e a ordem sereno, o que contribuiu decisivamente para aprofundar a nossa cultura espiritual tradicional, em que é disciplinada severamente a paixão impetuosa. Mas, isto não significa que os japonezes sejam moralizadores aridos, incapazes de apreciar a elegancia e delicadeza das coisas estheticas. Ao contrario, narra-nos a nossa historia que mesmo os guerreiros muito intrepidos souberam arranjar flôres e executar a cerimonia do chá em tempo de paz. Uma tal cultura altamente espiritual lhes permittiu comprehender o sentido profundo da morte, pela qual elles esperavam entrar no mundo delicioso da eternidade. O symbolo do Samurai é a flôr de cerejeira que floresce subitamente para se despetalar ao vento. Queremos conservar com orgulho esta valiosa herança cultural dos nossos antepassados, que nos trouxe a grandeza nacional. Temos a convicção de que esta cultura sublime colloca a nossa nação sempre fóra da ameaça de ser subjugada pela plutocracia democratica, terreno em que cresceu o marxismo. Estas ideologias extrangeiras se distinguem da nossa idéa nacional, por separar a vida economica da vida religiosa, por ser simplesmente um materialismo perverte lor.

Hoje está chegando afinal, o momento de liquidar todas as correntes de idéas que tem affluido promiscuamente ao Japão desde o inicio da Era de Meiji. Trata-se, porém, não de as excluir simplesmente, mas de as assimilar engenhosamente, de maneira que lhes seja assignalada uma posição propria dentro da nossa cultura synthetizadora. O que se póde affirmar agora, com certeza, é que em futuro proximo, resaltará a originalidade da nossa civilização aos olhos de todo o mundo, á medida que passa a hegemonia da Idade Moderna.

(Cont. no proximo num.) (9)

Abandono

Ha momentos incomprehensiveis. Ha momentos de indifferença. Indifferença não inconsciente. Como aquella que existe entre dois desconhecidos. Mas uma indifferença consciente. Viva. Chocante. Que dilacera como dilacera o coração do pae amante do filho.

Ha momentos em que o sol se põe além do valle e, por que lagrimas annuviam a vista do pobre peregrino?

Nesses momentos, o abatimento é geral. O viandante não tem mais alegria. Que é que lhe póde attrahir? Se a vida é incomprehensivel? Obrigam-no a se alimentar. Mesmo que a ração seja a mais perfeita, ao pobre peregrino pouco vale. Falta qualquer coisa, que os dietistas não sabem qual seja, muito menos os psychologos.

E o pobre peregrino vae definhando.

"O pôr do sol traz-lhe suspiros sem fim; o cuckoo quer, de modo extranho, movimentar o seu coração. Chuva que cahe, macia, do céo, como alliviar o peregrino mortificado? Onde a paz? E' em vão que elle tenta repousar. Não póde ser indifferente ante tudo e ante todos. Tem coração".

***

Sobrevindo a estação nova, tambem elle recebeu uma nova vitalidade. Até os medicos e os que tratavam delle se espantaram. Está em plena convalescença. Dentro em breve receberá alta. No aspecto, possue ainda um quê de tristeza e de abatimento. Mas no peito, no fundo, sente que algum milagre se realizou.— *M.*

88 dias no Extremo Oriente

XVII — José Yamashiro

Kyoto-Osaka, 1-5-40

Possuem serviços telegraphico, telephonico, tele-photographico proprios, além de todos os outros recursos necessarios á imprensa moderna. Além das duas edições diarias — no Japão todos os grandes jornaes publicam pelo menos duas edições diarias — matutina e vespertina — possuem numerosas outras publicações como de esporte, cinema, semanarios, edição ingleza, etc. O "Mainichi" publica ainda um jornal para cegos com lettras em relevo.

***

As avenidas de Osaka são espaçosas e longas. A prefeitura conseguiu ampliar e modernizar muitas das antigas arterias principaes da cidade. As ruas, principalmente as dos centros commerciaes são tão movimentadas como as de Tokyo. Os cinemas e theatros estão lotados. Os vehiculos circulam. E as fabricas atiram para o ar nuvens de fumaça, numa actividade febril e incansavel, que faz do Japão uma das maiores potencias industriaes do mundo.

Osaka-Kobe, 2-5-40

Visitamos a fabrica de fiação e tecelagem da "Nippon Boseki Kabushiki Kaisha" em Kaizuka, distante de Osaka cerca de 40 minutos pelo electrico rapido da linha Nankai. Passamos pelo arrabalde de Osaka, inteiramente cultivado, com plantações de arroz, legumes e verduras.

O director da fabrica nos recebeu com lhaneza e mostrou todas as dependencias da grande fabrica. Esta possue cerca de 3.000 operarios, na maioria moças. Ellas moram na propria fabrica, que possue uma especie de internato. Aliás a fabrica forma, pode-se dizer, uma pequena cidade, á parte, independente, com seu jardim, campo de athletismo, serviço medico, vendas, tudo enfim que seja necessario á vida de uma população de alguns milhares de almas. A' primeira vista choca o occidental, que ao saber que as operarias vivem alli, como internas, pensa logo em prisão, reclusão, oppressão ou coisa que o valha. Mas é necessario conhecer primeiro a organização economica e social, os habitos e costumes, a tradicção, a psychologia de um povo para comprehendel-o. O povo japonez nesse particular tem soffrido as criticas mais injustas, por parte de "criticos" occidentaes que quasi sempre querem ver o Japão e os japonezes com os olhos do occidente, isto é, collocando os japonezes no lugar dos occidentaes. Ora isto é tão absurdo como querer comparar, se japonezes permittida esta referencia, — e fazemol-a com todo respeito, — a Casa Imperial de Nippon ás dynastias extrangeiras. Os nipponicos têm um sentimento completamente differente do dos subditos das outras nações monarchicas, em relação ao seu Soberano. A historia ensina e a realidade mostra-lhes que o Soberano é o symbolo da propria Patria. Uma unica dynastia vem governando ininterruptamente o paiz, ha 2.600 annos. E desde o começo houve uma verdadeira relação de pae e filhos, entre o Imperador e os seus subditos. Não houve necessidade de força violenta por parte dos soberanos para se impôr no governo da nação. Mesmo os *generalissimos* feudaes, os *shoguns*, que durante varios seculos, tiveram quasi que o dominio absoluto temporal sobre todo o Imperio, não ousaram tocar na pessoa augusta do Imperador, que sempre se conservou acima das competições partidarias. No occidente os reis ou imperadores sempre se impuzeram á força. De maneira que os subditos o teem como senhor poderoso a quem devem obediencia, mas não como pae, a quem desejam, antes de tudo, a saude e a longevidade, como fazem os nipponicos.

O professor Fujisawa, na sua memoravel conferencia realizada na sede da Sociedade de Cultura Oriental disse: "Em principio ha de reconhecer-se o facto que o nosso *Tenno* (Imperador) se distingue dos monarchas de outros paizes em ser elle querido pelo povo japonez como o herdeiro directo da Deusa Solar. Chamamol-o *"Amatsu-Hitsugi"*, que implica o Successor Celestial do Sol, cuja linha dynastica não foi nunca interrupta até agora, tendo a perpetuidade do céo e da terra.

Disso resultou o principio mais importante do Estado Japonez, segundo o qual a relação entre o Tenno e os seus subditos se identifica com a relação entre os paes e filhos; a ordem natural inviolavel de alto e baixo fica estabelecida portanto entre o Soberano e o povo, o que protege para sempre a nação japoneza dum perigo de revolução destruidora. Esta jerarchia eternamente mantida entre o Tenno e o povo não impede, porém, que cada um dos japonezes possa gozar de plena liberdade de desenvolver as suas aptidões potenciaes, pois o Tenno reina e governa verdadeiramente de mesmo modo que o Sol, ancioso de desenvolver e aperfeiçoar com imparcialidade a natureza de todas as creaturas. Assim podem reconciliar-se perfeitamente no seio do nosso Estado o principio de auctoridade e de unidade com o de liberdade e de multiplicidade. Eis que o Japão não pertence á democracia nem á dictadura, eleva-se acima dos dois conceitos politicos oppostos. E' innegavel — asseverou o illustre professor — que a democracia, por falta duma auctoridade centralizadora, tende inevitavelmente para a anarchia, emquanto que a dictadura não se exercerá senão prejudicando o desenvolvimento espontaneo da personalidade individual".

(Continúa)